

みなさんは、ハチドリ？ それとも笑って見てるだけの動物の仲間？

メル友からのメールの中に、娘さんとの会話に触れた部分だ。

【 最近、子供同士で遊びに行くようになった4年生の娘。

昨日は帰ってきて、「みんなお菓子の袋とか、歩きながら平気で道ばたに捨てていくから、驚いた。」

「注意したけど、『大人だってしてるし』、『あたしが一人くらいゴミを捨てなかったとしても、環境は良くなる』って言われた。」

私。「そうか。でも、○子の仕事だと思って、友達に言い続けようね。

ゴミ袋、持って行けば良かったね。

でも、友達のゴミを○子が持って帰っても、友達が自分でゴミを片づけることを覚えなかったら一緒だね。」

娘。「お母さん、『ゴミは道ばたに捨てちゃいけない』って教えてもらってないお友達は、可哀想だと思うよ。」

彼女たちの親はどういう教育をしているんだろう？と思うと同時に、正義を貫けば社会から浮いてしまうだろうと思うと、娘をどう育てていけばいいのか迷います。】

このメールを読んで、アフリカで植樹活動：「グリーンベルト運動」の創設者のワンガリ・マータイ（2004年ノーベル平和賞）が、運動の意味、大切さを話す時に触れる「ハチドリ（鳥の仲間でもっと小型）」の話思い出した。

「森の火事に、消火しようと河から一滴ずつ口に含んで水を運ぶことを繰り返すハチドリに対して、森から逃げた動物たちは『そんなことして何になるのだ』と笑います。ハチドリは『私は、今、私にできる最善のことをしているだけ』と答えた。」という話。

これは 小さな力の大切さを教えてくれる南米アンデスに古くから伝わる話とか。

メル友の娘さんは、正に「ハチドリ」かな。

早速、この話をメル友に伝えた。

さて、みなさんは、ハチドリの仲間なのですか？ それとも、「非力だから…」、「どうせ自分一人がしたところで…」と、直ぐに諦めて逃げ出して、ハチドリの行動をただ笑って見てるだけの動物たちの仲間なのですか？

日頃から、どちらであろうと心懸けていらっしゃるのでしょうか？

(2006年3月20日 記)